



新入学・進級おめでとう！



進路指導部 スタッフ 紹介



進路指導室常駐スタッフ

増田 愛一郎 (3年 進路主任 商業主任)	牛ノ濱 裕也 (1年 進路副主任 国語)
山田 小百合 (3年 3-1担任 国語主任)	田中 美和子 (2年 2-2副担任 英語)
小川 聖太朗 (3年 3-2担任 理科)	横井 隆弘 (3年 3-3担任 商業)
上ノ町 友紀 (3年 3-1副担任 数学)	大西 治男 (2年 2-1副担任 数学)

進路指導係担当のスタッフ

有水 英二郎 (3年主任 総合学科主任 商業)	上段 亜希子 (2年 2-1担任 地公主任)
中島 幸二 (1年 副農場長 食品技術科主任)	熊埜御堂宏一 (3年 3-5担任 農業)
岩下 明子 (3年 3-4担任 農業)	平元 めぐみ (2年 2-4担任 農業)
日高 久美子 (2年 2-2副担任 2年副主任 農業)	鈴江 耕太 (1年 1-4担任 数学)

以上15名が、進路指導関係業務および総合学習など進路行事の企画・運営を担当します。どうぞよろしくお願いいたします。



〇●〇●〇進路指導室の利用について〇●〇●〇



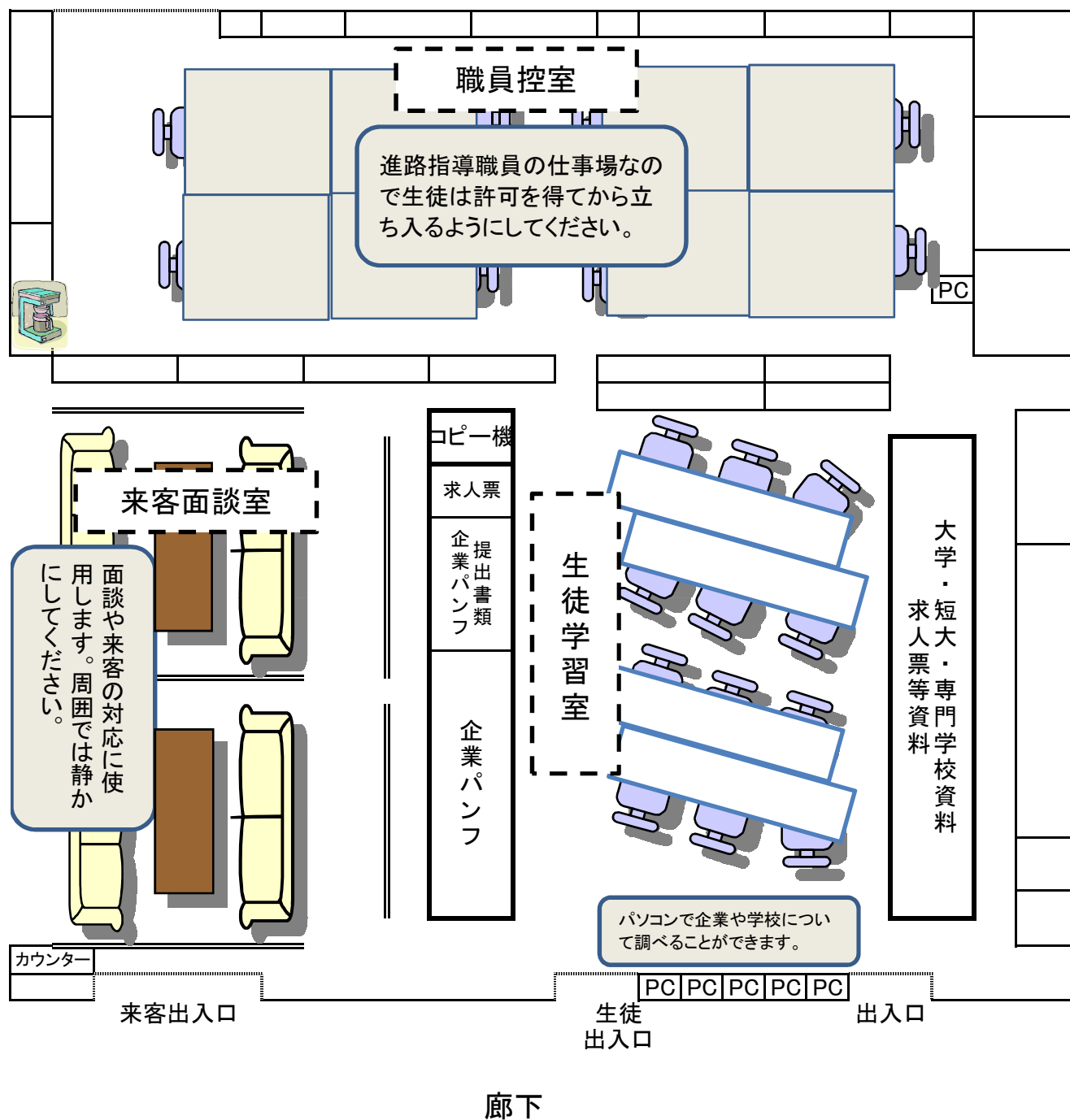
進路指導室は2号棟1階にあります。3年生の教室と同じ並びにあります。2・3年生は利用したことがある人も多いかと思います。学習室が設けられ、放課後・長期休業のゼミ期間中も含め開放されており、自由に資料を閲覧したり、自習用の学習機を利用することができます。積極的に活用し、進路対策に役立ててください。特に3年生は、進路室横の廊下にある掲示物・パンフレットや進路指導室内の資料をまめにチェックすることをおすすめします。以下は進路指導室利用上のルールやマナーです。学習室は試験前などかなり込み合いますので、注意事項をよく守り、みんなが気持ちよく利用できるように心がけましょう。(..)
φ メモメモ

- ① 利用期間・・・生徒が登校できる日は常時開放しています。(夏季・冬季休業含む。)
- ② 利用時間・・・学期中は朝8時から18 時位、休業中は朝8時30分から16時位までを原則としますが、遅くまで残りたい事情がある場合は職員に相談してください。
- ③ 禁止事項・・・私語・飲食・ゴミや私物の放置・座席の独占等の迷惑行為は厳禁です。
- ④ 資料閲覧・・・求人票・受験報告書・赤本・問題集・参考書・受験情報誌・学校案内パンフレット・書籍等、自由に閲覧できます。利用後は元の位置へ戻しましょう。
- ⑤ 資料貸出・・・原則としてできませんが、資料の一部をコピーしたい場合は、進路担当の先生に相談してください。また、日常の学習に使う問題集や参考書、第1 志望校の赤本は各自で購入するようにしましょう。
- ⑥ 室外資料・・・廊下においてある資料は、各自持ち帰ってかまいません。
- ⑦ 掲 示 物・・・過去2 年間の進路実績、説明会やオープンキャンパス、奨学金の案内などが貼られています。希望があれば、随時問い合わせもします。
- ⑧ そ の 他・・・資料は最新のものと順次入れ替えています。が、古い資料が入っていることがあります。平成23年度と書いてあるものが今年度の分です。

注意！

生徒用の出入り口は奥の方です。手前は来客・職員用なので間違えないようにしてください。

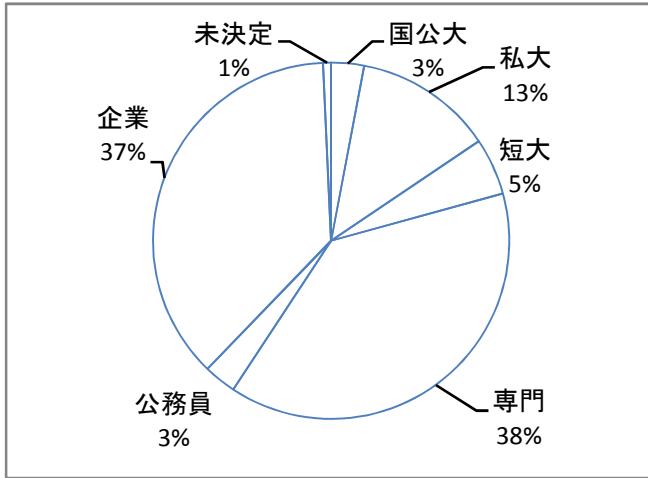
進路指導室レイアウト



**春休み中にリニューアルしました。
マナーを守り、進路決定に役立ててください。**



平成22年度卒業生(4期生)進路実績報告



全体 135人	進学 80人 59.3%	国公立大	4人
		私大	17人
		短大	7人
		専門	52人
	就職 54人 40.0%	公務員	4人
	未決定(就) 1人	企業	50人
		未決定	1人

※ 未決定の就職希望者は現在も仕事に就くために活動中です。

今春卒業した第4期生の進路状況が上記のようにまとまりました。合格先の詳細は進路指導室前の掲示板上に掲示しています。国公立大合格4名をはじめ、堅調な実績となりました。卒業生全体に占める進学率は59.3%と約6割で、例年行っている各学年の進路希望調査結果の数字と比較すると、例年は就職と進学が半々程度ですが、若干進学者が多くなっています。就職内定率もほぼ100%となり、進学・就職いずれの方面においても、本校生がほぼ自分の進路希望を叶えており、本校の進路指導が信頼を得ている成果であると、喜ばしく感じています。以下に、第4期生の進路分野別にみた生徒の受験傾向や対策学習の実態から、進路希望実現のためのポイントを分析したいと思います。

就職・公務員

鹿児島県内の高卒就職希望者のうち、249人が2月末時点で就職先が決まっていなかったそうです。昨年度は国の助成制度を利用して内定が得られるケースがありましたが、昨年から引き続いている不況と震災による影響で、更なる求職難が今年も継続すると考えられます。就職希望者は、あいさつ・礼儀・健康(出欠席:3年間でなるべく欠席10日以内に!)に留意して学校生活を送り、“就職に臨む覚悟”をしっかりと持ちましょう。ちなみに、昨年度優良企業に内定した生徒の共通点として”学習成績が優秀”だったことが挙げられます。就職試験にも筆記試験(一般常識・適性検査・作文等)があります。また、就職後の資格取得などを考えても、しっかり学力をつけておいた方が将来的に有利です。

公務員試験では、4名が出願し、試験に挑戦しましたが、合格は自衛隊一般曹候補生2名、自衛官候補生2名、鹿児島県警察(一次試験のみ合格1名)でした。不況下で公務員人気が高く、かなりの難関ではありますが、早めの対策をきちんとしていけば、合格することができます。ポイントは、1. 対策問題集を徹底的に繰り返す 2. 公務員受験予備校の講習会等を活用する 3. 模試や受験情報を欠かさずチェックするの3点です。

短大・専門学校

多様な分野・地域にわたる学校への進出が見られました。その中でも、医療系国家資格を得るための学校への進学が人気で、自分の将来を真剣に考える生徒像を伺うことができました。専門学校・短大の入学試験は比較的容易ですが、医療系だけは例外で、面接以外に加え学科試験・小論文なども課されます。また、入学後の勉強はかなり

ハードであり、国家試験に合格できなかった場合、つぶしがききません。医療系に限らず、就職に有利だから、〇〇が好きだからという考えだけでは甘く、学校の実態や自分の適性等をよく見極めて進学するべきでしょう。

短大は、4年制大学志向で近年不人気でしたが、ふたたび進学先として見直されてきているようです。例えば、保育系等では、特に女子の場合、4年制大学より短大・専門学校の方が、結婚・出産までに働ける年数が長いため、求人が多く就職に有利だそうです。ビジネス・教養系学科を持つ短大では、専門学校なみに資格・検定取得等に力を入れ、就職に実績を上げていたり、4年制大学への編入をセールスポイントにする学校も増えています。

短大・専門学校では、修業年限が通常2年と短く、カリキュラムが濃密になるので、より進学目的を明確にすることが重要になります。学校選びはよく考えて、必ず体験入学等に参加しましょう。また、短大・専門学校では、基礎教養は十分に勉強できないので、高校までに基礎学力をきちんと身につけておくことが大切です。

大学

国公立大学の合格数は4名と昨年度より増加し、開校以来はじめての合格となる広島大学への合格者を輩出できました。鹿児島大学には法文学部1名、農学部2名が合格しています。

第4期生の大学受験における第一の特徴は、AO入試受験が増加したことです。AO入試とは、学力試験の結果で合否が決まる従来の一般入試とは異なり、志望理由書や面接などにより出願者の個性や適性に対して多面的な評価を試みる入試をいいます。出願書類の入念な準備が必要になりますが、学力や評定平均に関わりなくその大学への熱意を評価してもらえ、ということで最近非常に人気のある入試形態です。大学が求める人物像とうまくマッチすれば、憧れの難関校への逆転合格も夢ではありません。AO入試に成功する秘訣は、まず高校生活を積極的に過ごすこと、そして受験をとおして自らの可能性を引き出していくことです。また、出願の際には書類を添削してもらったり、面接練習をしてもらう必要がありますから、教員とのコミュニケーションや信頼関係がとても大切です。

推薦入試の場合も、AO入試に準じますが、成績(評定平均値)が重要になります。例えば国公立大学の場合、4.3以上(A段階)を出願基準とする大学が大半を占めます。下表に評定平均値の目安をあげておきましたが、1年次から意識して、普段の学習をしっかりと行い、良い成績を上げておくことが肝心です。なお、推薦入試には大学が高校を指定して行う指定校推薦と、基準に合えばどの高校からも応募できる公募推薦があります。どちらの場合でも、大学側が高校からの推薦を信頼して行うものですから、合格したら必ず入学しなければなりません。

最後に、一般入試について述べます。本校では上記のAO・推薦が大半を占めますが、一般入試でセンター試験・個別試験と努力を重ねる生徒も増えてきました。1月中旬のセンター試験に向けて、既にAO・推薦で合格した生徒も含め、秋・冬は非常に熱のこもった補習が行われていました。本番のセンターでは、各科目得点で80%以上の高得点をマークした生徒も多数出ました。現役生は、最後の最後まで学力が伸びます。合格を信じて、粘り抜くことです。